

(平成28年12月25日)

第21回 赤松小三郎研究会のご報告

日時 : H28. 12. 20 (火) 18:30~20:30
場所 : 東京・文京シビックセンター 4F B会議室
出席者 : 21名

< 配布資料 >

- (資料1) 「赤松小三郎関係猪坂直一氏解読資料 (資料目録)」～滝澤進さん作成
- (資料2) 「赤松小三郎の薩摩塾について」(小林利通)～滝澤進さん作成
- (資料3) 「地域の視座から通史を撃て！」(宮地正人)～滝澤進さん作成
- (資料4) 『上田藩松平家物語』のご紹介と実費頒布のご案内～滝澤進さん作成

● 『上田郷友会月報』の赤松小三郎関連資料から新たに分かったこと～関良基さん作成

● 信州・上田今昔散策マップ (上田・城下町活性会)

< 回覧資料 >

- 「赤松小三郎関係猪坂直一氏解読資料 (資料目録)」(滝澤進さん作成)
- 「赤松小三郎関係猪坂直一氏解読資料」(本文)
- 「赤松小三郎の薩摩塾について」(本文)
- 「地域の視座から通史を撃て！」(本文)
- 「上田藩松平家物語」(サンプル)
- 和算新書 (天保2年 (1931年) 編集の「和算新書」)～宮坂幸雄さん所蔵の貴重本
- 解体新書 (岩波書店)～宮坂幸雄さん所蔵の貴重本
- 東京宝塚劇場 星組公演 パンフレット
- 原平三氏の著作本の紹介～成田邦夫さん

< 内容 >

報告者・・・滝澤進さん (61期)
猪坂直一氏資料、小林利通氏資料など解説

(1) 猪坂直一氏解読資料

- ・ 昭和43年に赤松家から新たに発見された赤松小三郎の書簡類等を文筆家・郷土史研究家の猪坂直一氏 (1986年没) が解読したもの。
- ・ 400字詰め原稿用紙171ページ (当初は200ページあったが、30ペー

ジほど紛失) 上田博物館に概ね年代順に区分され保存されている。

- ・ この資料には小三郎の書簡、その他資料が含まれている。重要なものは上田市立博物館発行の「赤松小三郎・松平忠厚」などに収録されているが、既刊の文献には収録されていない(初出)の資料もある。今後、幕末関係資料等との比較研究を進め、更なる調査・分析が必要である。

(2) 「赤松小三郎の薩摩塾について」(小林利通氏)の資料

郷土史研究家の小林利通氏(元上田染谷丘高校教諭、1996年没)が「維新の信州人」執筆後、新たに発見された史実等を取り入れて執筆した資料。

- ・ 郷友会月報について
- ・ 「柴崎伝」発刊以降の新事実について
- ・ 内田弥太郎(五観)について
- ・ 勝海舟との関係
- ・ 赤松小三郎年譜
- ・ 京都における塾
- ・ 薩摩藩の兵制近代化について
- ・ 重訂英国歩兵練法について
- ・ 公議政体論をめぐって
- ・ 嗟峨根良吉の建白
- ・ 桐野利秋「京在日記」など

(3) 「地域の視座から通史を撃て！」(宮地正人氏)

- ・ 平成25年3月に上田で行った講演記録をもとにまとめられたもの。
- ・ 同年8月に赤松小三郎研究会で行われた講演と比較すると、赤松を高く評価していることが分かる。
- ・ 今後、小三郎研究を進める上で、参考とすべき点が多い。

(4) 「上田藩松平家物語」(松野喜太郎)を会員希望者に実費頒布する。

報告者・・・関良基さん(86期)

「上田郷友会月報」の赤松小三郎関連資料から新たに分かったこと

「上田郷友会月報」の中から興味深い事実を紹介(抜粋)

- (1) 一番古い赤松小三郎の記事は明治19年1月～2月号 狂奔生(堀謙吉)「赤松君略伝」
- ・ 小三郎の最大の業績を「英国歩兵練法」の訳出と近代的な兵学教育に求め、議会議会政治の提唱や暗殺犯が誰かについては指摘なし。

- (2) 赤松小三郎が薩摩兵を訓練したのは相国寺～明治43年9月号 兎耳庵「東郷大将の赤松先生談」
- ・今出川の薩摩藩邸内（現在の同志社大学）では、薩摩兵800人の戦闘訓練をするには手狭であり、実際は薩摩屋敷隣の相国寺（そうこくじ）の広大な境内で小三郎から訓練を受けていた。
- (3) 鳥取藩と赤松小三郎のつながり～大正11年7月～8月号 松尾白楽天（松尾茂）「赤松小三郎略傳」
- ・文部省維新史料編纂課の松尾茂氏が初めて寄稿。鳥取藩士・井坂勝臣の、赤松小三郎の事績を記した手記を紹介～アプリンから英語を学んだ折のエピソード、小三郎を暗殺したのは薩摩であることを正しく指摘、小三郎は吉田松陰とも親しかった（これは虚報）、等。
 - ・井坂勝臣が赤松小三郎の門人の一人だったかもしれない。
 - ・鳥取藩の藩政資料には赤松小三郎に関する詳しい記述があるが、鳥取藩と赤松小三郎をつないでいたのが誰かは詳細不明だが、井坂勝臣の可能性がある。
- (4) 福井藩と赤松小三郎のつながり～大正15年4月～5月号 松尾白楽天（松尾茂）「赤松先生と福井藩」
- ・慶応2年11月の福井藩側用人周旋方の酒井十之丞の手紙を紹介～福井藩士・青山小三郎の報告から、赤松小三郎は慶応2年11月16日にすでに薩摩藩邸で教えていたことが分かる。薩摩が初めて、野津道貫を介して江戸にいる小三郎をスカウトしたのは10月17日。つまり、10月から11月にかけての1カ月の間に小三郎は薩摩の招請を受け入れ、京都に移って開塾したものと思われる。
- (5) 赤松新と可兒春琳の息子と野津道貫の息子の邂逅～昭和3年5月号 赤松新「赤松小三郎の斬奸状に就いて」
- ・赤松小三郎の養子である赤松新（あかまつはじめ）が初めて寄稿。氏は体験に基づいて興味深いエピソードを書いている。
 - ・赤松新が野砲兵第13連隊の中尉だった時、可兒春琳（かにしゅんりん）の息子と野津道貫（のづみちつら）の息子と同じ中尉の階級で同僚だった。赤松新は可兒春琳の息子を通して春琳が赤松小三郎暗殺の犯人は野津道貫だと疑っていたことを聞いた。しかし、赤松新は春琳の生前に春琳に会って確認することはかなわなかった。（野津道貫は赤松小三郎の一番弟子であったこともあり、小三郎暗殺に加担した側であるとは信じがたい）
- (6) 可兒春琳の談話の紹介～昭和3年7月号 松尾白楽天（松尾茂）「再び斬奸状について」
- ・松尾は、大正8年に可兒春琳を訪問してインタビューした情報を紹介。
 - ・可兒によれば、暗殺の前日、大久保利通が手紙をもって赤松先生に決別の宴を

催したいと申し入れた、・・・(やはり大久保利通は小三郎暗殺の黒幕の一人であることがうかがえる)

(7) 山縣有朋と桐野利秋の会話の出所が分かった～昭和3年7月号 松尾白楽天(松尾茂)

「再び斬奸状について」

- ・松尾茂氏が伝聞として以下のエピソードを伝えている。

「山縣公も桐野から、こんなに早く幕府が倒れるなら、殺さなくてもよかった、惜しいことをしたと述懐談を聞かされた」と云ふ」と。

残念ながら、松尾がこのエピソードをいつ誰から聞いたのか、詳細が記されていない。

- ・山縣は、薩摩屋敷に潜伏していたので、小三郎のことは知っていたはずで、山縣と桐野がこのような会話を交わす必然性はある。

(8) 維新史料編纂官 原平三の寄稿～昭和11年7月号「松平忠固と赤松小三郎」

- ・成田邦夫さん(56期)の親戚(叔父)である原平三氏は東大の国史を出た維新史料編纂官。昭和20年4月19日にミンダナオ島で戦死。
- ・原氏は、お国自慢的に忠固や小三郎の業績を語るのではなく、二人の業績を客観的な史料に基づいて実証していかねばならないことを強調。

●当日のご意見

- ・宮地正人先生は赤松の事績を「ミリタリーエンジニア」という限られた面でのみ評価しているのではないかと。
- ・同先生は、小三郎の当初の狙いが強力な洋式軍隊の形成にあったとしても、それを日本の政治体制の「変革」に結びつけている点を高く評価しているのではないかと。
- ・薩摩塾という言い方はおかしい。当時、藩が主宰する藩校は、～館、～堂が多い。例えば、上田藩の場合は藩校の明倫堂がある。
- ・“薩摩塾”という固有名詞で呼ばれたかどうかは分からないが、“塾”なる言葉が使われていたことは間違いないのではないかと。
- ・小三郎が咸臨丸で渡米できなかった理由として、井伊直弼、あるいは勝海舟の「いやがらせ」があったのではないかと。

以上

赤松小三郎研究会 事務局

小山平六(62期)

荻原 貴(79期)